

報告 災害時多言語情報センター運営訓練

「災害時多言語情報センター※」をご存知ですか？

平成23年3月11日に発生した東日本大震災や、平成28年4月に発生した熊本地震においては、多くの日本人被災者の状況と共に、外国人被災者に関する報道も多数なされました。

その中には、母国にはない地震に驚き、その恐怖から出国した人もいた一方、日本にとどまり言葉や習慣の壁など幾多の困難を乗り越えて復興に立ち向かう、在住外国人の姿がありました。

現在は永住や定住など、長期間日本に滞在し親しい隣人として生活をする外国人も増加していますが、ひとたび大規模な災害が発生すると、多くの外国人は「災害弱者」となってしまいます。一人も取り残さない、誰にでもやさしい社会を構築することが求められています。

大地震等などが発生した際に、埼玉県のと要請により当協会が設置・運営することになっている「埼玉県災害時多言語情報センター」の業務は、主に次の3つです。

- ①多言語による相談窓口の開設
- ②公的機関からの依頼に応じた翻訳支援・仲介通訳支援
- ③多言語での情報提供（県災害対策本部の情報など）

当協会では、避難所設置等の役割を担う県内市町村及び市町村国際交流協会の担当者へのセンター周知を図るとともに、連携強化を図ることを目的とした訓練を実施しています。またこの訓練には、当協会に登録している通訳・翻訳ボランティアにも参加を呼びかけています。

平成29年度の訓練では、市町村関係者39人、翻訳ボランティア6言語28人(やさしい日本語を含む)が参加し、県内各地に設置された避難所等での提供を想定した情報の翻訳シミュレーション訓練を行いました。

また併せて、県内各地域における被災状況の確認を行うシミュレーション訓練も実施しました。

日常ではあまり考えることのない、有事の際を想定することにより、より具体的な課題なども見えてきました。また関係機関との連携を確認する非常に貴重な機会となりました。

この訓練について詳しくお知りになりたい方は、下記アドレスをご覧ください。

sia1.jp/international/disaster/ 検索



継続は力なり。今後も、当協会では、関係機関等との連携を強化し、いざ！という時に動ける体制づくりを目指して活動していきたいと思います。

※「災害時多言語情報センター」とは

埼玉県と当協会が、大規模災害発生時等の外国人支援を円滑に行うため設置するものです。このセンターの設置及び運営に関する協定が平成26年8月に締結されました。



第10回 キューバ共和国



ルイス・バジェさん



埼玉県にゆかりがあり、現在県内や海外で活躍している方に出身国や現在暮らしている国の紹介をいただくシリーズ「世界の国からこんにちは」。今回は、日本に拠点を置き、有名歌手のレコーディングやライブツアーに数多く参加されているトランペット奏者のルイス・バジェさんに、出身国である「キューバ共和国」について、紹介していただきます。

キューバの街並み

首都ハバナの旧市街(オールドハバナ)はスペイン植民地時代のコロニアル様式の建物が街のあちこちに残っています。パステルカラーのレトロな街並みはとても古く、世界遺産にも登録されており、観光客にも人気です。また、アメリカの50年代のクラシックカーも街中を現役で走っています。アメリカからの制裁措置により新しい車が入ってこなかったため、その当時の車が現在まで大事に乗られているからです。観光客にも喜ばれることから、以前はボロボロで汚かったクラシックカーが今はきれいにされています。レトロな街並みとクラシックカーはよく似合い、とても写真映えます。車と同じように、楽器や野球のグローブなども古いものを修理しながら使います。私が音楽学校でトランペットを専攻していた際にも、楽器は学校のもので、パーツを自作で工夫したり修理したりしながら大事に使い、卒業する際には新入生に引き継ぎました。そして、街では音楽がいろいろなところから聞こえてきます。カフェから生演奏が聞こえ、バンドのリハーサルの音が聞こえたりとラテン音楽好きにはたまらないと思います。



レトロな街並み

キューバの人はどんな人？

キューバの人は、半数はアフリカ系とヨーロッパ系の混血で、全体で見てもいろいろな人種で構成されています。革命後、人種に依らず国民全て平等という精神が根付いています。キューバでは美容整形なども含め医療費が無料

です。また、学費も無料です。医学部ももちろん無料なので、国民一人当たりの医師数も多く、ベネズエラなど他国へ医師を輸出しています。スポーツや芸術分野の教育も無料なので、才能があれば多くの子供達が英才教育を受けられます。常夏の気候、配給制度もあり、最低限の生活を保障をされているせいかもしれませんが、キューバ人は陽気で人懐っこい人が多く、おしゃべり、特に冗談言うのが大好きです。そして、家族をととても大切にしています。「子供は国家の宝」という考えがあり、みんなで助け合って子育てをしています。もちろん、キューバ人の生活には、音楽と踊りは欠かせません。



トランペットを学んだ音楽学校



手前中央が「青バナナの素揚げ」

主食はお米と豆

キューバの主食はお米です。お米はベトナムからの輸入が主です。お米と黒豆を炊いた「コングリ」はよく食べられる主食で、日本の赤飯に見た目がそっくりです。塩、にんにく、クミンで味付けされ、豚肉が入っていたり、家庭ごとに味付けが若干違います。「黒豆のシチュー」は見た目は日本のお汁粉にそっくりです。これも味付けは塩、にんにく、クミンで、白ご飯にかけて食べます。これらは、食卓に毎日のように並び定番メニューです。また、「青バナナの素揚げ」もよく食べられます。青いバナナを輪切りにし、二度素揚げし、押し潰したもので、塩を振って食べます。メキシコに近いので、スパイシーな食べ物を想像されることが多いですが、スペインの植民地時代に一緒に入ってきたアフリカ文化の影響が大きく、シンプルな味付けが好まれます。また、ラム酒ベースのカクテル「モヒート」と「ダイキリ」が有名です。アメリカの作家ヘミングウェイは、それぞれのカクテルを飲む店を決めていて、今でもその二つの店ではヘミングウェイの特等席が残り、観光客に人気のスポットになっています。

埼玉でもラテン音楽を！

キューバは決して裕福な国ではないので、近所付き合いが密で、助け合いながら生活しています。そういう環境で育ったため、日本に来て生活する際、近所付き合いのある土地で暮らしたいと考え、現在、さいたま市内に家族で暮らしています。私はトランペット奏者として活動しているので、東京や県外での音楽フェス等で演奏しています。そこで、地元埼玉でも、ラテン音楽奏者やダンサーなどが集結した文化的なイベントができたらと考えています。



フェスで演奏するルイスさん